

(発行日：平成26年12月16日)



梢が木枯らしに吹かれ、地面が落ち葉の絨毯に覆われもう冬がそこまで・・・と思っていたのもつかの間、十二月にはいると、あっという間に冬將軍が到来しました。センターでは、九月下旬の秋晴れの日にボランティアの方々と一緒に敷地内でコオロギの採取をしました。コオロギは昆虫食の鳥の餌として重宝するので、この時期暇を見つけては採集するようにしています。しかし、どういいうわけかこの日に限ってはコオロギがほとんど捕れません。ついこの間までは草むらのいたるところに丸々太ったコオロギがいたのに。後日、他の職員とこの話をしたところ、数日前に二十羽ほどのカラスが草むらに集まって何かを懸命に啄んでいたとのこと。

実りの秋は野生動物にとっては、食料の乏しい冬を乗り切るべく栄養を蓄える大切な時期。そんな時期に、栗やクルミ、ドングリなどの木の実を拾い、コオロギなどの昆虫を捕って回る職員は、ここを生活の一部としている動物達にとってはいい迷惑なのでしょう。

写真は、十月にセンターの敷地内に現れたオオタカです。敷地内の池にはまって、羽を泥まみれにしてしまったために飛べなくなっていたのです。その日はちょうど池の水を抜いた日だったので、池に集まるカルガモを襲った際に、勢い余って水のない泥沼に突っ込んでしまったのでしよう。近づくとピョンピョン跳ねて逃げていきます。こんな情けない姿を見せてしまったオオタカですが、カルガモに与える影響は絶大で、その日はその後一羽のカルガモも現れませんでした。



有害鳥獣

「有害鳥獣」という言葉をお聞きになったことがありますか？

街で暮らす方にとってはゴミステーションを散らかすカラスや、群れをなして街路樹からフンを落とすムクドリなどの印象が強いと思いますが、現在日本で農林水産業に毎年約200億円の被害を与えているのがこの有害鳥獣です。そのうちシカによるものが約80億円、イノシシによるものが約60億円で、その他にもサル、カラス、ハクビシンなどによって田畑の作物や植林した苗木が食い荒らされるだけでなく、樹皮を食べられた樹木が枯れ死して森林の表土が流出、深刻な洪水被害の原因になっている地域もあります。またこの被害金額に集計されるのは出荷している産物だけですので、自家用に栽培している小規模な高齢農家さんの被害はもっと深刻であり、耕作放棄地の増加や担い手の減少の原因にもなっています。

ここ岩手県でもシカによる森林被害や南からのイノシシ、ハクビシン被害の広がりが大きな問題となっています。行政も決して手をこまねているわけではなく、全国で被害金額とほぼ同じ年間約200億円の費用をかけてこれら有害鳥獣の捕獲や追い払い、防護柵の整備などを実施しています。

ここで問題になるのは、これら有害鳥獣が傷ついて保護された場合です。一方で費用をかけて捕獲している鳥獣をもう一方で費用をかけて救護するということは、行政の一貫性から、また被害を受けておられる方々の市民感情の面からも許されません。岩手県では現在カラス（ハシブトガラス、ハシボソガラス）、スズメ、ニホンジカ、ハクビシンなど24種類の鳥獣を有害性が高い鳥獣として救護の対象から除外しております。皆様のご理解をお願いします。

これら有害鳥獣の問題は今に始まったことではなく、ヒトが狩猟採集生活から農耕生活に移行した頃から始まっており、出土する猪鹿垣（シシガキ）等の遺跡からは江戸時代以前には現在よりも熾烈なヒトと有害鳥獣の闘いがあったと推察されています。明治に入って銃や毒餌などの武器の発達によって、日本ではニホンオオカミの絶滅という悲劇が起きてしまいましたが、現在では捕獲の対象となる前のモニタリング、又動物種によっては保護管理計画が作成されており、有害鳥獣捕獲によって再びニホンオオカミのような悲劇が繰り返される心配はありません。（環境悪化による絶滅の心配はありますが、その件はまた。）

【 ニホンジカによる被害 】

リンゴの被害(樹皮はぎ)



水稲の被害



大根の被害



キャベツの被害



出前授業 ボランティア活動

出前授業スタート

今年度より、広報活動の一環として、盛岡市と滝沢市内の小学校高学年を対象とした出前事業をスタートしました。この授業は子ども達に、野生動物と人間の関係、生物多様性、外来生物などについて知ってもらい、自分たちにも出来ることがあるということをお伝えしたいという想いから始まったものです。

9月3日（水）、記念すべき1回目の授業を盛岡市立城南小学校にて行いました。話を聞いてくれたのは5年生36名で、自分が小学生だった頃とは比べ物にならないほど、一生懸命話を聞いてもらい、つたないなりに何かしら伝えられたのではないかと感じられる、有意義なひと時となりました。

まだまだ、資料の内容や話し方にはいたらないところがありますが、子どもたちとの関わりを通じながら、よりよい授業にしていきたいと思しますので、授業を希望される学校があればどしどしご連絡ください。



ボランティア活動報告

岩手大学自然史探偵団は、昨年度より一般ボランティアに登録してくれている学生さん達で、頻りにセンターを訪れては、草刈り、木の間伐、餌となる昆虫の採集などに大活躍してくれています。なかでも、取りわけてありがたかったのが、車庫のペンキ塗りでした。道路に面して建っている車庫は、センターの前を通った人からは一番目に目に入る建物なのですが、建てられた当時のまま、手を付けずに来たので、ずいぶんと色あせてしまっていました。それを学生さん達が全身ペンキだらけになって綺麗に塗り替えてくれたのです。お陰で、センターの前を通る人や出入りする業者さんから「綺麗になったね。」「かわいい車庫になったね。」と褒められます。若い人たちのパワーやアイデアが鳥獣保護センターの大きな力となっているのを感じると、頼もしさと感謝の気持ちで一杯になります。



センターお仕事日記

夏に大活躍した刈払機。センターには3台常備していますがこの3台で約4ヘクタールを4回転程刈払います。真夏の作業は30℃を超える日が続くので、絞れるくらいの汗をかきます。結構全身運動なのでなれない人は体中筋肉痛なるくらいです。今年は大学生ボランティアの皆さんがこの作業に挑戦してくれました。ダイエットにいいなんていうレベルではないですよ？いやぁでも本当に助かりました。ありがとうございました。刈払機を整備して収納すると今度は除雪機の出番です。バッテリー充電、オイル交換も終わり本格的に到来した冬に備えます。



【お礼】 以下のとおり寄付をいただきました。

- ◆ 9月に最上益雄様より餌用のお米
 - ◆ 10月に山本定雄様より餌用のお米
 - ◆ 5月と10月に匿名の方から現金各10万円
- 大変ありがとうございます。センターの運営に大切にさせていただきます。

【募集】 出前授業を受けたい小学校を募集しています。

小学校高学年の子供達を対象として、人と野生生物の関わり方などのテーマで出前授業を実施しています。興味のある学校の方はお気軽に岩手県環境生活部自然保護課（TEL:019-629-5371）までご相談ください。

【傷ついた野生鳥獣の受け入れについて】

- ◆ 以下の動物については、有害性が高いことから救護の対象としていませんのでご注意ください。
鳥類：ハシブトガラス、ハジボソガラス、マガモ、カルガモ、キジバト、ドバト、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ニュウナイスズメ
獣類：ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、アナグマ、ハクビシン、キツネ、タヌキ、ノイヌネコ、ノウサギ、イタチ
- ◆ けがや病気などで弱っている動物を見つけたら、むやみに手を触れず、元気があればそっと様子を見守ってください。
- ◆ けがや衰弱のため動けないようであれば、まずは、お近くの広域振興局へ連絡をお願いします。センターの職員が、直接救護に向かうことはありません。

【見学・研修について】

センターの見学や研修、ボランティア活動などを希望される方は、所定の手続きが必要となりますので岩手県環境生活部自然保護課（TEL:019-629-5371）までお問い合わせください。（野鳥観察等ができるネイチャーセンターも近くにあります。）

岩手県鳥獣保護センター

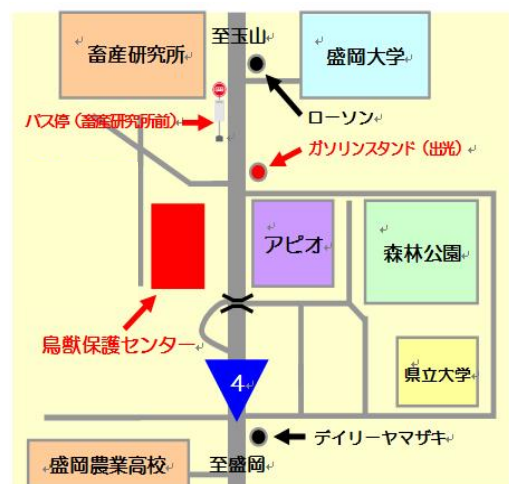
休所日 年末年始(12月29日から1月3日)

受付時間 午前9時から午後5時

〒020-0605 岩手県滝沢市砂込390-29

TEL / FAX 019-688-4728

※不在の際は、お名前と連絡先を留守番電話のメッセージに残していただければ折り返しご連絡致します。



過去のいわて鳥獣保護センター通信は、岩手県のホームページで見ることが出来ます。
<http://www.pref.iwate.jp/shizen/yasei/hogo/002910.html>